



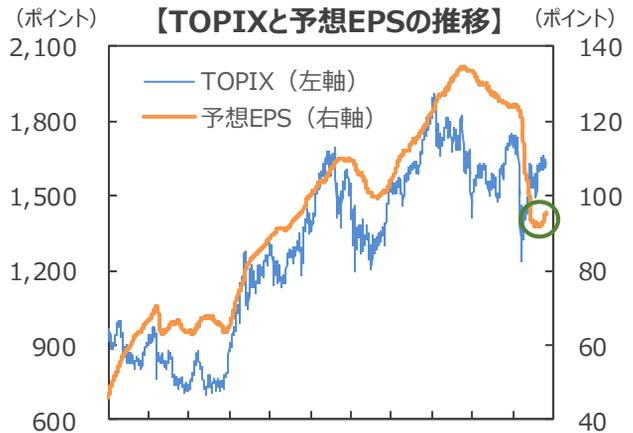
今日のトピック 日本株式市場～値固めの後、堅調な推移へ 企業業績は新たな回復トレンド入りの予感

ポイント1 振幅はあるものの堅調に推移 外部要因が下支え

- 日本株式市場は、春先の急落を経た回復の後、足踏み状態で推移していますが、国内のコロナ感染が比較的落ち着いているため、総じて底堅く推移しています。

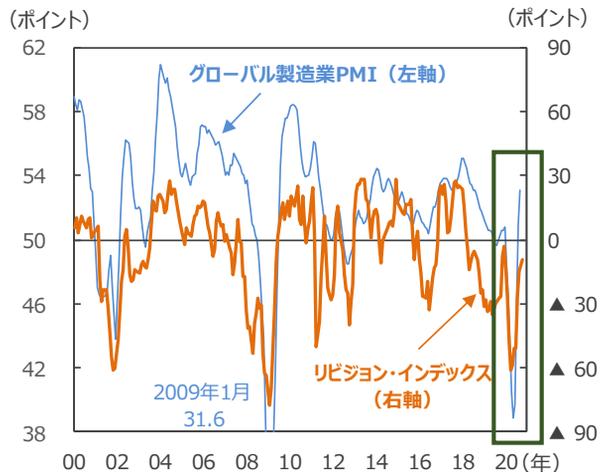
ポイント2 底が見え始めた利益予想 新たな回復トレンド入りの予感

- 日本は景気・企業業績の回復が、諸外国より遅れ気味でした。米国の企業業績は4-6月期にボトムを付け、株価上昇にも弾みがついていましたが、日本も利益予想の見通しによりやく明るさが見え始めました。2010年以降では東証株価指数（TOPIX）の1株当たり予想利益（EPS）は一旦反転すると持続することが多く、株価にもプラスの影響があることがうかがえます。



(注) データは2010年1月4日～2020年10月29日。予想1株当たり純利益（EPS）は12カ月先予想ベース。Bloomberg L.P.集計。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【グローバル製造業PMIとリビジョン・インデックス】



(注) データは2000年1月～2020年10月。グローバル製造業PMIは20年9月。グローバル製造業PMIは3カ月移動平均。リビジョン・インデックスは20年10月22日。リビジョン・インデックスはTOPIX採用企業の12カ月先予想当期利益をベースに（上方修正銘柄数－下方修正銘柄数）÷（上方修正銘柄数＋下方修正銘柄数）で計算。4週移動平均。当期利益はリフィニティブI/B/E/S予想。
(出所) IHS Markit、Datastreamのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

今後の展開 値固め後、堅調な推移へ

- 足元では、米大統領選後と新型コロナの世界的な感染再拡大が懸念されます。米大統領選後は、期待外れのタイミングにはなりますが、いずれ追加の財政政策が発動される見通しです。新型コロナ感染拡大については、米国で11、12月にもワクチンが承認される見通しで、状況悪化が反転すると期待できる時期が近づいています。楽観は慎みながらも、極端に悲観する必要はないと思われます。
- 今後は、グローバル景気の回復が腰折れしなければ、日本の企業業績のさらなる改善も可能と考えられます。業績予想の上振れ・下振れを示すリビジョン・インデックスは、グローバル製造業購買担当者景気指数（PMI）と連動しながら、大きく改善傾向を示しています。日本株式市場を巡る環境は次第に明るさを増すと、期待されます。

ここも チェック!

2020年10月29日 米国株式市場～好調な企業業績が下支え
2020年 9月16日 緩やかに回復する日本の小型株市場

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。